

第38回

関東・東北ブロック研究会会報

<http://www.b-jitsumu.com/index.html>

平成23年2月13日（日）、鶴見大学会館において、第38回関東・東北ブロック研究会が開催された。42人が出席し、研究発表、バズセッションなどを通して活発な意見交換が交わされた。また、今回3回目となった学生プレゼンテーション発表会では、7人の学生が非常に優れたプレゼンテーションを披露した。最優秀者は6月の全国大会へ出場した。

総会あいさつ

関東・東北ブロック研究会リーダー
高崎経済大学 坪井明彦



総会挨拶に際し、次の3点をブロック研究会会員にお願いをする。

① 今回のブロック研究会から、

運営の簡素化に努めている。お茶やお菓子等、できるだけ省略・簡素化していく方針であるので、ご理解・ご協力をお願いしたい。

② 2011年度はブロック運営委員の交代の年であるので、依頼された先生はできるだけ協力していただきたい。

③ ブロック研究会と違ってカテゴリーC（開催日時やテーマについては、会員が企画して適宜開催できる研究会・勉強会）の案内は、関東・東北ブロックのメーリングリストのみで行っているため、メーリングリストにまだ登録していない会員の方々は、登録してほしい。



助成研究発表 1

テーマ：「学生3言語に関する研究」

多摩大学 佐藤美津子

企業のグローバル化に伴い、英語、情報、会計の知識はビジネス実務上の情報を伝達・理解する上で必須のツールである。これらの三要素を大学卒業までに養成すべき「学生3言語」と呼び、社会人基礎力としてどのように育成すべきか、そのあり方、方法などを研究した。

まず、行政、企業が学生にどのような能力を求めているかを整理した。行政も企業も学生に求める能力は、コミュニケーション能力が重要であること確認したが、一言でコミュニケーション能力と言っても、求めるコミュニケーション能力は様々であった。次いで、その能力を大学教育で具体的にどのように育成するかを本研究会では「学生3言語を通じてコミュニケーション能力を育成することである」とした。



さらに、本研究会の目的である「学生3言語」を効果的にどのように能力育成すべきかについては、能力の「見える化」が必要であると考えた。

その理由は、第一に、グローバル人材を求める人事労務管理に対応するため、第二に、大学のユニバーサル化やゆとり教育世代の学力低下への対応のためである。

助成研究発表2

テーマ：新卒採用における学生と企業のミスマッチ解消に向けての考察

榎クオリティ・オブ・ライフ 渡邊 大輔

本研究では、前回の「情報」のマッチングから考察する学生の就職活動と企業の採用活動を引き継ぎ、高崎経済大学同窓生（平均30歳の若手／平均57歳のベテラン：計65名）にキャリア形成アンケートを実施、【学生×企業×OBOG】の観点から、新卒採用における「情報」のマッチングについて深化を行った。

具体的には、OBOGに対するアンケート設問の「仕事を継続する上で重視する項目」と「今現在、どんな企業情報を得ておけば良かったと思うか」という2点に着目し、新卒採用時、学生はどの情報をより深く企業から入手しなければならないか、企業はどの情報をより自社の魅力として訴求しなければならないか、を明らかにした。

結論としては、OBOGは新卒採用時の「情報」として、「人材育成が行われ自己成長できるか」という項目を最重要視しているが、企業、学生はさほど重視しておらず、大きな差異が見られた。つまり、＜採用⇒就職＞というある種瞬間的なマッチングに加え、＜採用⇒定着＞という継続的マッチングをはかるには、上記「情報」の取得、提供が重要であることが分かった。

【参照アンケート】

大宮智江（川口短期大学）・渡邊大輔（株式会社QOL）「高経大卒業生キャリア形成アンケート」
2011

個人研究発表

テーマ：キャリア教育の一環としてのビジネスマナー教育の効果測定

自由が丘産能短期大学 藤原由美

経済不況によりきわめて深刻な就職難が続いている近年において、ビジネスマナーに関わる教育はキャリア教育の一環として多くの大学や短大などにおいて広く実践され、新たな注目を浴びている。

本研究は、学生及び教員の学習達成度評価を正確に把握することで、キャリア教育の一環としてのビジネスマナー教育の必要性と今後の可能性について考察しようとするものである。筆者らは、2010年度に担当した自由が丘産能短期大学における「ビジネスマナー」の授業の最初と最後に、受講生に対して同一の学習達成度の自己評価を行った。さらに当該科目を担当した教員にも同様の学習達成度評価を行うことによって、より明確で客観的な効果測定を実施することができた。

これらの調査・分析の結果、ビジネスマナー教育が一定の効果を上げたことを客観的に確認し、キャリア教育の一環として意義があることを明らかにした。最後に、授業担当教員と学生の教育効果との関連性、他科目との連携、就職活動及びキャリア形成における教育効果の継続調査という今後の課題を示した。

就職支援バズセッション

大妻女子大学短期大学部 岡田小夜子

最近の深刻な就職難を背景として、今、教員たちがもっとも関心をもっているテーマである「就活支援」について、高崎経済大学の宮登先生の問題提供の後、バズセッションが行われた。

宮登先生のお話に刺激を受け、5～6人の各グループで現在の学生の就職活動の状況や問題点について具体的に討議をした。



その中の一つである本グループでは、ゼミ生全員が内定を得ている学校から20%の内定率の学校

までさまざまであった。厳しい就職活動に耐えられなくなっている学生も増加しており、そのような学生へのケアも話題に上がった。一方でJOBカフェのサポーターやカウンセラーとの連携の必要性も強調された。

中でも宮登先生が提議した、学生の成長のための要素である「学生が主体となる」ための教育や援助をどのようにすればよいのかに、それぞれの教員が具体的な施策を披露していた。

約1時間のバズセッションであった。最後に宮登先生への質疑応答があり、終了した。



学生プレゼンテーション発表会

関東・東北ブロックの学生プレゼンテーションは学生8名の参加者により競われた。今回はテーマが設定されていないのでそれぞれ個性豊かな内容でプレゼンテーションが行われた。学生のプレゼンテーションは学生の努力と教員の熱心な指導により年々質が向上してきているように感じられる。そのため審査は難しいものとなったが、4名の審査員と会場審査により、最優秀賞には自由が丘産能短期大学の松崎かごめさんが決定した。また、優秀賞には常磐短期大学の増渕麻美さんと湘北短期大学の知念里奈さんが決定した。

なお、最優秀賞の松崎かごめさんは6月に行われる全国大会に東北・関東ブロックの代表として全国大会に参加する予定である。



審査員の先生方
と発表者

第3回学生プレゼンテーション発表会 発表者（敬称略）

| 学生氏名 | 学校名 | タイトル | 指導教員 |
|------------|----------------------------|--------------------------------------|-------|
| チャイリキ ニラチャ | 国際短期大学 国際コミュニケーション学科1年 | Amazing Thailand | 細川美穂 |
| 黒澤 綾香 | 国際短期大学 国際コミュニケーション学科1年 | インターンシップ体験 ー中野区役所ー | 細川美穂 |
| 大野 麻衣 | 湘北短期大学 生活プロデュース学科1年 | 目指せ う首領（ドン）！ | 佐藤知条 |
| 知念 里奈 | 湘北短期大学 生活プロデュース学科1年 | 私を見て！ | 佐藤知条 |
| 松崎かごめ | 自由が丘産能短期大学 能率科秘書コース1年 | ネットが教えてくれたこと ー私のインター(ナショナル)ネット体験ー | 菅井 郁 |
| 高橋 凜 | 聖霊女子短期大学 生活文化学科生活文化専攻1年 | ペットブームに想う | 佐藤 恵 |
| 林 李香 | 常磐短期大学 キャリア教養学科1年 | 甘ったれ卒業！ | 高橋眞知子 |
| 増渕 麻美 | 常磐短期大学 キャリア教養学科1年 | 負けず嫌いに磨きをかける私 | 高橋眞知子 |

審査委員

審査委員長：大島武（東京工芸大学）

審査委員：牛島倫子（鶴見大学） 武田秀子（たけだ総合コミュニケーションセンター）
坪井明彦（高崎経済大学）（50音順 敬称略）

結果

最優秀賞：松崎かごめ（自由が丘産能短期大学）

優秀賞：増渕 麻美（常磐短期大学） 知念 里奈（湘北短期大学）

奨励賞：チャイリキ ニラチャ（国際短期大学） 黒澤 綾香（国際短期大学）
大野麻衣（湘北短期大学） 高橋 凜（聖霊女子短期大学）
林 李香（常磐短期大学）

審査委員長総評

東京工芸大学 大島 武

ブロックでの学生プレゼンテーション発表会は、今回で3回目を迎えましたが、年々レベルアップしていると感じています。特に今回は、内容・構成のすぐれたプレゼンテーションが目立ちました。美しい資料を作り、ハキハキと元気に発表してくれる学生は、割合多くいます。でも、話の構成を整え、全体のメッセージを際立たせるのは学生レベルでは至難の業。ご指導された先生方のご努力に心より敬意を表します。

最優秀賞の松崎かごめさんは、とかく否定的に見られがちなインターネットの出会い系サイトで、海外の同世代の学生との思わぬ交流が広がった経験を表現力豊かに発表してくれました。今回の中でもずば抜けた存在で、全校大会でも高い評価を得ることと確信しています。

本学会元会長の大宮登先生もご指摘されていたとおり、こうした非日常の機会に参加すること自体が学生さんたちの大きな糧になることは間違いありません。今後の益々の充実を期待しています。

最優秀賞受賞者の声

自由が丘産能短期大学 1年 松崎かごめ

自由が丘産能短期大学の松崎かごめです。この度は、最優秀賞という名誉ある賞を授与して下さい、ありがとうございました。

私にとって菅井先生のプレゼンテーションの授業は、緊張するから得意ではないけれど、興味深く魅力のある大好きな授業で、発表の度に失敗や成功を体験して、人前で話すことの楽しさと奥深さを知る事が出来ました。出場を決めて半年の間、頭の片隅ではいつも大会のことを考えていました。壁にぶつかった時、菅井先生は、私の言葉を大切にしながら丁寧に指導して下さいました。最優秀賞の受賞は菅井先生のご指導のおかげだと思っています。

全国大会出場という貴重な機会を与えて頂き、本当に私は幸運だと思います。関東東北ブロックの代表として、より良いプレゼンテーションを披露するために、これから更に精度を高めていきたいと思っています。ご期待に添えるよう頑張りますので、応援をよろしく願いいたします。

指導教員からひと言

自由が丘産能短期大学 菅井 郁

このたび、関東・東北ブロック学生プレゼンテーション大会において、本学の松崎かごめさんに大変名誉ある最優秀賞を授与していただき、指導教員として心より御礼申し上げます。

本大会の出場に際して、学生指導上心掛けたことは、学生がつむぎ出す言葉を大切にすることです。限られた時間の中で、自分が相手に伝えたい、つまりはプレゼントしたい内容は、どのような言葉であれば皆様の心に届けることができるのか。この〈言葉を紡ぎ出す〉という作業に、当人は痛々しいほどものがき苦しみ、格闘しておりました。それゆえわたくしは、上手に演出する技巧的な教授よりも、この作業に多くの時間を費やすよう心がけました。自分の心と言葉について深く思考し純化させた結果、彼女の言葉の一つ一つには力が宿り、今回の素晴らしい賞につながったのだと感じております。本大会関係者の皆様にはあらためて感謝申し上げますと共に、全国大会でも思いのこもった言葉を多くの方々にお届けできるよう、松崎さんの頑張りに期待したいと思います。



研究会を終えて

カリタス女子短期大学 北川宣子

今年度第38回 関東・東北ブロック研究会は2011年2月13日（日）に実施された。実施にあたり運営委員会で

は、当番校の負担をできる限り軽くするために各係を分担し合うと同時



に、研究会の簡略化を図った。恒例の基調講演はなくし、出席者全員が参加できるよう「就活支援バズセッション」と名付け各大学の学生の就職活動支援状況の意見交換を試みた。大宮登先生の問題提供という導入のお陰で、各グループで有意義な話し合いの場が持てたようだ。

年々、学生指導や募集活動が多忙となる中このような形なら研究会も無理なく持続できるのではないかと実感した。

最後に、終始ご助言くださったブロックリーダー

の坪井先生はじめ、会場の手配をしてくださった牛島先生、学生プレゼンテーション発表会を一手に引き受けてくださった藤原先生、そして参加費を取りまとめてくださった長谷川先生他、実行委員の方々に感謝の意を表したい。

速報！！

6月5日に行われた学生プレゼンテーション全国大会において、関東・東北ブロック代表の自由が丘産能短期大学の松崎かごめさんが**優秀賞**を受賞しました。

当日は、短期大学生だけでなく、4年制大学の学生も参加して非常にハイレベルのコンペティションが繰りひろげられました。参加者はそれぞれ緊張しつつも十分にいままでの成果を出し切り、内容の濃い質の高いプレゼンテーションをしました。松崎さんのプレゼンテーションも同様に関東・東北ブロック研究会からさらに練習・努力し、質の高い内容でした。

松崎かごめさん、また指導をされた菅井郁先生おめでとうございます。

事務局から

■ 本来4月頃にお届けする会報が遅れてしまい、大変申し訳ありませんでした。担当の不手際によるものです。ただ遅れたために全国大会の学生プレゼンテーションの結果をご報告できたことは少しだけよかったことでした。

■ 平成23年度より、運営委員が変更します。新しい運営委員は以下の通りです。（ ）内は所属。

リーダー 坪井明彦（高崎経済大学）、

サブリーダー

岡田小夜子（大妻女子大学短期大学部）、飯塚順一（湘北短期大学）、齋藤勇二（自由が丘産能短期大学）

メンバー

阿部康子（東北文教大学短期大学部）、石井典子（東京経営短期大学）、牛島倫子（鶴見大学短期大学部）、北川宣子（カリタス女子短期大学）、高橋真知子（常磐短期大学）、寺村絵里子（国際短期大学）、長谷川文代（湘北短期大学）、藤原由美（自由が丘産能短期大学）、山口憲二（新島学園短期大学）、渡邊大輔（㈱クオリティ・オブ・ライフ）

平成23年9月27日 発行 日本ビジネス実務学会関東・東北ブロック研究会事務局

編集責任者 坪井明彦（高崎経済大学）

編集担当者 畠田幸恵（湘南短期大学）